

なかまつ寛議会議会報告

2015.1 月
NO.12

二〇一五年 新年号

赤



年頭のごあいさつ

ハイサイ!

平成二十七年、二〇一五年の新春を心よりお祝い申し上げます。新しい年が皆様にとりまして、ご健勝にて幸多い年となりますよう念願いたします。昨年の政治情勢は、一月の名護市長選挙を皮切りに県内では十七市町村で首長選、二十市町村で議員選挙が実施され、十一月には天王山となった県知事選挙、風雲急を告げる年末の衆議院総選挙と選挙の当たり年でありました。

一連の選挙で特筆すべき事は、「普天間基地の移設」に対する問題です。ご高承の通り那覇市議会は「普天間基地の県外移設」に関する意見書を幾度となく決議しており、去る那覇市議選においても「普天間基地県外移設」の公約で私も当選を果しました。このようなことから、市民との公約を守るため「辺野古移設反対」を唱える「翁長雄志新知事」への支援を行ったため、長年籍を置いてきた自民党から除名処分を受けました。「信なくば立たず」まさにその格言通り、県知事選、那覇市長選、衆議院総選挙は「公約の重さ」「政治家の姿勢」「沖繩の尊厳」を改めて問う選挙となり保革の枠を超えた「オール沖繩」勢力の勝利に終わりました。しかしながら、「勝つてかぶとの緒を締めよ」との故事にならい、気を引き締めて、示された県民の民意を大切に「基地問題」「経済・雇用」「観光」「IT」「子育て・教育・医療・福祉」「文化・スポーツ」等、経済産業分野の更なる振興、働く環境の整備、市民のくらしに係わる課題の解決、改善に精一杯努力していくことが肝要であると存じます。

また、本市においては、那覇市初の女性市長、城間幹子市政が誕生しました。翁長市政の継承、発展に向けて教育者としての経験、視点を活かした行政運営に市民の期待が広がっています。私の政治スローガンで掲げる「子育て、教育、福祉が原点」を更に推進できるよう議会の立場から切磋琢磨して共にがんばりたいと存じます。

さて、私の昨年における議会活動は、「議会運営委員会委員長」「教育福祉常任委員会委員」「政策検討部会委員」「会派、新風会総務会長」として、与えられた使命、職責に精一杯取り組んで参りました。

本年は、戦後七十年の節目の年であり、任期四年の折り返し二年の年でもあります。本県の「平和への思い」を大切に議員として更に襟を正し、市民の声にしっかりと耳を傾け、これまで行った政策提言の点検と新たな政策づくりと目標に向かって全力を挙げて取り組む所存でありますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成二十七年一月吉日

那覇市議会議員 なかまつ 寛